

令和4年度 自己評価計画（中間評価）

石川県立金沢中央高等学校昼間制

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判定基準	評価	データ	分析と課題	備考	
1	生徒の実情に応じた学び直しによる基礎学力の定着を確かなものとするとともに、ICT活用、アクティブラーニング、ユニバーサルデザイン化等を推進することで学力向上を図る。	教務課	【成果指標】 ・生徒用端末を授業で活用したことがある教員数が増加している。 ・2月に調査予定	○生徒用端末を授業で活用したことがある教員数が前年比で A 120%以上である。 B 110%以上120%未満である。 C 100%以上110%未満である。 D 100%未満である。	/	5月の調査では、昨年度中に7名の教員が活用している。	評価は2月の調査結果を待つことになるが、GIGA研修を通して個々の教員のスキルは向上しているものと思われる。	○5月、2月に調査	
	○教職員が、学習習慣を定着させる指導及び、授業の出席を促す指導を徹底し、生徒の授業に取り組む意識を向上させる。	生徒指導課	【成果指標】 ・授業の出席を促す指導の対象生徒数が減少している。	○授業出席を促す指導の対象生徒数が A 10名以下である。 B 11名以上25名以下である。 C 26名以上35名以下である。 D 36名以上である。		5月～7月の指導対象の生徒5名 昨年度は13名		昨年度の同時期と比較すると、指導対象の生徒数は半分以下に減っている。今後もこの状態を維持するべく、機会をとらえて粘り強く注意喚起を行っていく。	○2月末に集計
2	卒業までを見通したキャリア教育に組織的に取り組み、生徒の希望進路を実現する。	進路課 学年	【成果指標】 ・年度末には全卒業生の進路先が内定している。	○年度末における全卒業生の進路内定率が A 95%以上である。 B 85%以上95%未満である。 C 80%以上85%未満である。 D 80%未満である。	/	/	/	○3月に調査	
	○生徒が、進路の目標をできるだけ早い時期に設定できるようにキャリア教育を進め、望ましい職業観と社会性の育成を図る。 ○年度末に卒業予定の生徒が、遅くとも6月には進路目標を持てるように指導する。また、6月に進路目標を持てなかった生徒には継続的に指導する。	進路課 学年	【成果指標】 ・年度末に卒業予定の生徒が、進路目標を持っている。	○年度末に卒業予定の生徒で、進路目標を持つものの割合が A 90%以上である。 B 75%以上90%未満である。 C 70%以上75%未満である。 D 70%未満である。				A	92% 卒75名 進学43名 就職26名 未定6名
3	規範意識の育成、教育支援の充実、外部機関との連携により安心安全な学校づくりを推進する。	総務課	【成果指標】 ・保護者が学年別保護者説明会、保護者懇談会に少なくとも1回は出席している。	○学年別保護者説明会、保護者懇談会に1回は参加した保護者の割合が A 85%以上である。 B 75%以上85%未満である。 C 65%以上75%未満である。 D 65%未満である。	/	6月の調査では、350名の生徒保護者のうち、107名(1年56,2年26,3年11,4年14)が保護者説明会に参加	コロナ禍のため、過去2年間は保護者が校内に入る機会がほとんどなかった。この影響もあり、6月の保護者会には過去に比べて大変多くの参加者があった。今後の情報発信の仕方やその内容を工夫改善することで、学校行事等への保護者の参加を増やしていきたい。	○6月、9月12月に調査	
	○教職員は、「どの生徒も、いじめの被害者にも加害者にもなりうる」という基本認識を十分にふまえた指導を行う。本校の「いじめ防止基本方針」に基づく取組を確実に実施することで、いじめの発生を防ぐ。	生徒指導課	【成果指標】 ・いじめが発生しない。	○いじめの発生件数が A 重大事案が0件かつ認知件数が0件である。 B 重大事案が0件かつ認知件数が5件以下である C 重大事案が0件かつ認知件数が6件以上10件以下である。 D 重大事案が1件以上または認知件数が11件以上である		7月アンケート結果では、重大事案、認知件数ともに0件	9月上旬現在のいじめの認知件数は0件であるが、いじめにつながるような小さな事案は散見されている。今後も担任、各課、外部機関等と連携しながら、生徒たちを見守っていく。	○9月末、1月末に集計	
	○健康診断や個別の指導を通じて、生徒の歯・口の健康づくりに重点的に取り組む。	保健課	【成果指標】 ・歯科検診で受診勧告された生徒が受診している。	○歯科検診後に受診勧告された生徒のうち、受診した生徒が A 40%以上である。 B 30%以上40%未満である。 C 20%以上30%未満である。 D 20%未満である。		D	14.4% 受診勧告208名 受診報告30名	7月末現在で、受診報告があったのは30名だった。今後受診報告を順次受け、受診率は向上すると思われる。今後も受診勧告を続け、2月に最終的な集計を取る予定である。	○2月に集計
	○効果的な支援を実践するために、学年会、養護教諭、外部機関等との連携による組織的支援体制を整備し、対象生徒を適時に支援する。	保健課 相談室	【努力指標】 ・教職員が個別の教育支援計画を作成することができる。	○個別の教育支援計画について、生徒に合った具体的な目標を立てることができると自己評価した教職員の割合が、 A 50%以上である。 B 40%以上50%未満である。 C 30%以上40%未満である。 D 30%未満である。		A	できる 11.4% まあまあできる 51.4% 合計62.8%	肯定的な評価ができなかった教員の割合を減少させるために、教育支援計画作成時のグループメンバーの構成を工夫するなどしたい。	○7月、1月に調査
4	スポーツ活動や文化活動、ボランティア活動等とおして自主・自律・助け合いの精神を備えた活力ある生徒を育成する。	生徒会課	【成果指標】 ・生徒が部活動に参加している。	○部活動に参加している生徒の割合が A 45%以上である。 B 35%以上45%未満である。 C 30%以上35%未満である。 D 30%未満である。	/	5月の集計結果(生徒総数350名) 運動部 男子41名、女子29名 文化部 男子16名、女子23名	部活動に参加している生徒の割合は、一昨年32.9%(99名)、昨年32.2%(97名)と推移しており、今年度5月時点では31.1%(97名)(運動部20%、文化部11.1%)となっている。なお、入部した生徒総数に変化はない。	○5月、10月に集計	
	○教職員が生徒に、生徒会活動や学校行事等について、分かりやすく説明し、興味・関心を持たせ、主体的な参加を促す。	生徒会課	【満足度指標】 ・生徒が、生徒会活動や学校行事に満足している。	○生徒会活動・学校行事に対する生徒の満足度が A 80%以上である。 B 70%以上80%未満である。 C 60%以上70%未満である。 D 60%未満である。		9月の地域清掃ボランティア活動、体育祭に向けて、生徒らが積極的に参加できるよう生徒会役員を中心に協力して行きたい。	○10月、12月に調査		
5	発達障害による困難を抱える生徒を対象に、通級指導などによる自立活動を通して、自尊感情を高めるとともに、障害の改善または克服を目指す。	通級指導推進	【成果指標】 ・教職員が、発達障害のある生徒への具体的な支援の場面をもつことができる。	○発達障害のある生徒への具体的な支援の場面をもつことができたとする教職員の割合が A 85%以上である。 B 75%以上85%未満である。 C 60%以上75%未満である。 D 60%未満である。	A	肯定的な評価 88.5% できた 17.1% まあまあできた 71.4%	「まあまあできた」も含めると、88.5%ができた回答。1月の調査では、「できた」との回答が増えるよう、情報共有の機会を作っていきたい。(対象教員35名)	○7月、1月に調査	
6	効率的かつ効果的な業務遂行のため、組織的な業務改善に努める。	教頭	【努力指標】 ・教職員がICT機器等を用いて、業務改善につながる工夫をしている。	○ICT機器等を用いて、業務改善につながる工夫をすることができたと自己評価した教職員が、 A 70%以上である。 B 60%以上70%未満である。 C 50%以上60%未満である。 D 50%未満である。	A	肯定的な評価 71.4% できた 12名 まあまあできた 13名	今年度、初めて設定した評価項目であるが、肯定的な評価をした教員は70%を超えている。今後もICT機器を用いた業務改善に努めたい。	○9月、1月に調査	